

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、悪化している。

すなわち、最終需要面をみると、輸出は極めて低水準で推移しているほか、個人消費も弱い動きが続いている。また、住宅投資、公共投資は低調に推移しており、設備投資も減少している。こうした中、地場企業の企業収益は足もと減益幅を一段と拡大しており、景況感も悪化している。

県内主要製造業の生産は、極めて低水準で推移している。

雇用・所得環境をみると、労働需給面、賃金面ともに弱い動きがみられており、雇用者所得は減少している。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費は、弱い動きが続いている。

すなわち、4月の販売動向をみると、百貨店売上高は、衣料品や身の回り品が一段と落ち込んだことから、8か月連続で前年を下回った。スーパー売上高も、全般的に不振であったことから、前年を下回った。また、乗用車販売では、自動車減税の対象となる一部の車種では比較的好調な販売となったものの、全般的に需要が低迷していることから、9か月連続で前年を下回った。一方、旅行取扱高、主要観光地への入り込みは、前年並みとなっている。

この間、家電販売では、弱めの動きがみられている。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、減少している。

すなわち、21/3月短観調査における20年度の設備投資計画(地場・出先企業計)をみると、製造業が、食料品、一般機械を中心に増加計画となっているほか、非製造業でも、電気・ガス、小売、運輸を中心に増加計画となっていることから、全産業ベースでは、前年を幾分上回る計画となっている。しかしながら、前回調査(20/12月調査)と比較すると、製造業で大幅な下方修正となったため、全産業ベースでも下方修正となった。

また、21年度の設備投資計画をみると、製造業では、素材業種が大規模定期修理を予定している石油・石炭製品を中心に増加計画にあるものの、加工業種が電気機械、一般機械を中心に大幅な減少計画となっているため、全体でも前年を幾分下回る計画となっている。また、非製造業でも、電気・ガス、小売、運輸などを中心に減少計画となっている。この結果、全産業ベースでは、前年を1割弱下回る計画となっている。

建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用<1~3月>)は、僅かに前年を下回っている。

(3) 住宅投資

住宅投資は、低調に推移している。

3月の県内新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、マンションのいずれも前年を下回った。

(4) 公共投資

公共投資は、低調に推移している。

発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、4月は、「国」が前年を上回ったものの、「独立行政法人等」、「県」、「市町村」、「その他の公共的団体」で前年を下回ったため、全体では前年を下回った。

(5) 輸 出

輸出は、極めて低水準で推移している。

4月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア、西欧、中東欧・ロシア向けを中心に前年を大幅に下回った。

(6) 生産・出荷・在庫

3月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の季調済前月比は、食料品、繊維、石油・石炭製品を中心に低下したことから、全体では6か月連続の低下となった。

この間、出荷指数(季調済前月比)は、輸送機械、石油・石炭製品、食料品を中心に低下したことから、全体では7か月連続の低下となった。また、在庫指数(前年同月比)は、輸送機械、鉄鋼、電機機械を中心に低下したことから、全体では4か月連続の低下となった。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船は、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。また、石油精製は、一部の先で実施していた大規模定期修理が終了したため、生産が持ち直している。一方、工作機械は、生産が大幅に減少しており、石油化学は、一部の先で大規模定期修理を実施しているため、生産水準が大幅に低下している。また、自動車、鉄鋼、電気機械は、内外需要の落ち込みを背景に、極めて低水準の生産を続けている。このほか、繊維、耐火物は、低水準の生産が続いている。この間、農機具は、底堅く推移している。

(7) 雇用・所得

雇用者所得は、減少している。

労働需給面をみると、4月の有効求人倍率は、新規求人数の減少や新規求職者数の増加から、低下を続けている。また、3月の所定外労働時間も、前年を大幅に下回っている。雇用面をみると、3月の常用労働者数は前年比マイナスに転じている。この間、4月の解雇者数は引き続き高水準となっており、雇用保険受給者数も増加している。

賃金面をみると、3月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回っている。

(8) 物 価

3月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)は、交通通信、教養娯楽などが前年を下回っているため、全体では僅かながらも前年比マイナスとなっている。

(9) 企業倒産

4月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数、負債総額ともに大幅に前年を上回った。

3 . 金 融

(1) 実質預金等

4月の県内実質預金をみると、個人預金、法人預金の前年比プラス幅が縮小したものの、公金預金が前年比プラスに転化したことから、実質預金全体の伸び率は拡大した。

なお、地元10行庫の預かり資産をみると、市況悪化の影響から投資信託の残高が前年比マイナスとなっているものの、保険商品は引き続き高い伸び率となっている。

(2) 貸 出

4月の県内貸出をみると、企業向けの前年比プラス幅が拡大したものの、地公体向けの前年比プラス幅が縮小したほか、個人向けの前年比プラス幅が横ばいとなったことから、貸出全体の伸び率は横ばいとなった。

(3) 貸出約定平均金利

4月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、前月比上昇した。一方、ストック金利（同）は、前月比低下した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市北区丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足もとの動向
自動車	海外需要の落ち込みを背景に、極めて低水準の生産が続いている。 輸出向け生産が、海外需要の落ち込みを背景に、極めて低水準の生産を続けているほか、国内向け生産も、消費者マインドの悪化を背景に、落ち込んでいる。こうした中、部品メーカーなどの県内関連先についても、極めて低水準の生産が続いている。
造船	豊富な受注残を背景に、高操業が続いている。 造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンの生産が高操業を続けている。
石油精製	一部の先で実施していた大規模定期修理が終了したため、原油処理量は、持ち直している。 製品別の需要動向をみると、ガソリンは、ETC 搭載車を対象とした高速道路料金値下げの影響もあり、底堅く推移している。一方、軽油は、物流の停滞から内外需要が不振となっている。また、灯油留分は、灯油については出荷が伸び悩むまま需要期が終了し、ジェット燃料は航空旅客の減少から弱含みとなっている。重油は、燃料転換の進捗などから減少傾向にある。
石油化学	一部の先で大規模定期修理を実施しているため、生産水準は大幅に低下している。 製品別の需要動向をみると、スチレンモノマー、ポリスチレンで、海外需要に持ち直しの動きがみられているほか、ポリエチレンについても、ナフサ価格の底打ちや在庫調整の進捗などから持ち直しの兆しが窺える。また、プロピレンでは、海外向けに動きがみられるほか、在庫調整の進捗により、主力の自動車向けについても底打ち感がみられているため、全体として持ち直し傾向となっている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、極めて低水準で推移している。 製品別の動向をみると、厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。また、形鋼類は、国内の流通在庫の削減が進捗しているほか、鋼材価格の先安感が解消されつつあるため、生産は徐々に持ち直し傾向となっている。一方、薄板類は、自動車・家電向けで需要が落ち込んでいるため、極めて低水準の生産となっている。また、棒鋼類は、建設向けで持ち直しの動きがみられるものの、主力の自動車向けが引き続き落ち込んでいるため、全体としては極めて低水準の生産となっている。
耐火物	鉄鋼向け需要の落ち込みを背景に、低水準の生産が続いている。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカーの減産の影響から、低水準の生産となっている。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続く中、需要低迷のため、低水準の生産となっている。
電気機械	携帯電話向け部品などの落ち込みを背景に、極めて低水準の生産を続けている。 製品別にみると、電子部品は、在庫調整の進捗や中国における最終製品需要の持ち直しを背景に、一部の先で減産幅を縮小させる動きがみられるものの、総じてみると、全ての最終製品向けで極めて低水準の生産を続けている。スイッチでも、携帯電話向けで極めて低水準の生産を続けている。また、デジタルビデオカメラは、海外需要の落ち込みを背景に、生産量が伸び悩んでいる。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物、ジーンズは、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、作業服は、主要顧客である建設業の業況悪化や海外拠点への生産シフトを背景に、低調な生産が続いている。一方、学生服は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	自動車関連需要の落ち込みなどを背景に、大幅に減少している。 NC旋盤、MC(マシニングセンター)は、自動車関連、一般機械関連の新規受注が大幅に減少しているほか、手持ち案件のキャンセルもみられており、生産水準を大幅に引き下げている。
農 機 具	底堅く推移している。 製品別にみると、コンバインは、前年に生産調整を実施し、ほぼ適正な在庫水準になっていることもあって、底堅く推移している。一方、携帯用刈払機は、海外需要の落ち込みや為替円高による競争力低下を背景に、全体の生産は弱含んでいる。